

## これまでの議論の整理

### 1. 第 6 期科学技術・イノベーション基本計画策定時からの変化

#### ○先端技術の著しい進展

- ・先端研究の進展速度の増大、波及範囲の広範囲化
- ・科学技術イノベーションは経済成長における原動力、市場やビジネスのグローバル化に伴い、人材獲得も国際化し、先端技術の獲得競争も国際化

#### ○地政学的な変化

- ・経済安全保障の重要性の高まり
- ・国際情勢の不確実性の増大
- ・開かれた研究環境を不当に利用して不正に技術等を搾取しようとする動向への懸念の増大

### 2. 検討にあたっての背景

○開かれた研究環境の中で、研究者が国際的に連携しながら、自由な発想に基づく研究を通じて科学が発展してきたところ。

○コロナ禍を経て、国際交流を再起動させるべき時期。加えて、我が国アカデミアが持つ国際ネットワークは、近年弱体化しているとの指摘あり。現存するネットワークをベースに、これを太くし、更に新たなネットワークに活用する残り少ないタイミング。

○国際連携は、今後、研究の質向上、研究力の維持・確保や、市場・ビジネスのグローバル化の観点から一層重要。

○G7 及び OECD など国際的に、開かれた研究環境を不当に利用した技術流出等のリスクへの対応（研究セキュリティ）の重要性・必要性の認識が強くなり、一層の対応強化が求められている状況。研究インテグリティ及び研究セキュリティの確保が世界的な潮流に。

○国際交流の再起動や国際連携をさらに推進しつつ、リスクにも対応していくためには、国際的な共通の価値観に基づいた信頼できる開かれた研究環境の確保、共通の価値観へのコミット・実践が一層重要。

### 3. 方向性案

#### （1）開放性を持った研究環境や国際連携の重要性の再確認

○多様な人材が協働する、開かれた研究環境の中で、自由な発想に基づく研究を通じて科学が発展することは、国際的な共通認識。

○研究の開放性や国際連携・交流を過度に制限することなく、研究力向上・国際化の加速が必要。

- 地球規模課題の解決や SDGs の達成に向けても国際連携が一層重要。
- このため、ボトムアップとトップダウンの特性を活かし、その両輪で国際連携を進めていくことが重要。
- ボトムアップにより学術交流、多様な人材との連携、先端・新興技術分野での先進国・同志国との連携、ASEAN やインドなどの重要なグローバル・サウスとの連携強化。

## **(2) 今後の国際連携に重要となる研究インテグリティ及び研究セキュリティの確保に関する基本的考え方**

- 科学の発展やイノベーションの創出には、魅力ある研究環境を構築し、国際的に連携した、自由な発想に基づく研究が必要不可欠。国際連携のためには、学問の自由・独立性・開放性・相互主義／互惠性・透明性といった共通の価値観に基づく、信頼できる開かれた研究環境が国際的に確保されていることが必要。
- 一方、近年、開かれた研究環境を不当に利用した、海外への技術流出等のリスクが国際的に強く認識され、G7 や OECD で研究インテグリティ及び研究セキュリティの確保の重要性を指摘。今後、国際連携を進めるために、我が国においても研究インテグリティ及び研究セキュリティの確保に関する取組が、これまで以上に求められる。
- 研究インテグリティに関しては、研究者及び大学・研究機関等の研究コミュニティにおいて、自律的に確保出来るよう、政府方針<sup>※</sup>を踏まえた、研究者の研究活動の透明化や、組織としてのリスクマネジメント等の取組を徹底することが重要。これらの取組が関係者の負担を配慮しつつ適切に実施されるよう、政府の支援が重要。

※研究活動の国際化、オープン化に伴う新たなリスクに対する研究インテグリティの確保に係る対応方針について（令和3年4月27日統合イノベーション戦略推進会議決定）

- 研究セキュリティに関しては、諸外国において、外国からの不当な影響への対応として取組の検討が進んでいる状況。今後の国際連携にあたり、我が国でも同等の取組が求められていくことが想定される。また、国内でも、経済安全保障上特に重要な分野をはじめ、特定の研究開発については、情報や技術の保全等の取組が必要となると考えられる。政府は、研究コミュニティと連携の上で、我が国における研究セキュリティの確保に係る取組を検討する必要。

## ご議論いただきたい点

### 1. 検討にあたっての背景等について

- 地政学的変化や先端技術の著しい発展以外に、特に留意すべき変化はあるか。
- 科学技術イノベーションの国際戦略を検討する上で、盛り込むべき事項等はあるか。

### 2. 方向性案について

#### (1) 開放性を持った研究環境や国際連携の重要性の再確認

- 具体的な方向性として盛り込むべきことは何か。
- 報告書をまとめるにあたり、留意すべきことはあるか。

#### (2) 今後の国際連携に必要となる研究インテグリティ及び研究セキュリティの確保に関する基本的考え方

- 今後の国際連携を推進するという観点から、基本的考え方として盛り込むべきことは何か。
- 報告書をまとめるにあたり、留意すべきことはあるか。